

台風や大雨に見舞われたお盆も終わり、一気に日が短くなったように感じます。二十四節気では処暑を迎え、暑さが和らいでいく頃です。朝夕の温度差が大きい時期なので、体調管理にお気をつけくださいね。

さて、今回は研修会のお知らせがあります。9月6日金曜日10時から学習室にて、広島国際大学生涯学習自然園の前園長、神田博史先生の研修会を開催します。告知が遅れたため、今回のメルマガで紹介させていただこうと思います。

タイトルは「笑涯学習（しょうがいぐしゅう）40年と植物」と題し、予約不要、無料の研修になります。戦後に復元された縮景園の薬草も管理されている講師の、薬草や健康についての興味深い講義が目の前で聞かれます。毎年の講義では笑い声が絶えない、和やかな雰囲気での研修会になっています。ご都合がよろしければ是非ご参加ください。

また、9月4日水曜日13時からの研修会「イネ科植物の学習会」では、秋のイネ科植物を観察します。名前の分からないサンプルがありましたらお持ちください。

★見どころ情報★

園内を散策すると一見、花が少なく思えますが、じっくり観察すると高木や低木、草本の花が多く見られます。

まず木の花です。多目的広場ではミソハギ科で庭や公園でよく見られるサルスベリ（写真1）が咲いています。2か月に渡り、フリルの様な可愛い花を咲かせ続けるため、「百日紅」の漢字をあて、別名ヒャクジッコウとも呼ばれます。一方、サルスベリの名は、樹皮が剥がれた滑らかな幹の様子から「サルでも滑る」と例えられて名づけられました。葉の生え方は、2枚ずつが互生するコクサギ型葉序で対生もまじります。

次は草花です。正面ゲート下三叉路に掲示板がありますが、その横のモクセイに絡みついて花を咲かせている蔓植物が見られます。これはマメ科のホドイモ（写真2左上）という名の多年草で、林縁などの日当たりの良い場所に自生します。名前の「ホド」とは塊のことで、塊状の根を持つことに由来します。イモは食用で、青森県では古くから栽培されていましたが、現在、ホドイモの名で流通しているものの多くは、類似種でアメリカ原産のアメリカホドに入れ替わっているようです。

この他、レストハウス裏ではイラクサ科のアカソ（写真2右上）が花をつけています。類似種にアカソより小型のコアカソ、クサコアカソがあります。作業舎前では、ハギの仲間で全体に黄褐色の毛があるネコハギ（写真3左下）が咲き、薬草園から東山作業路につける道沿いでは、一見フキの様に見えるキク科のオタカラコウ（写真3右下）の花が見られます。

また昆虫では、カマキリのような鎌を持つハエのミナミカマバエ（写真3上）や、エゴノキの果実を食べる面長のエゴノヒゲナガゾウムシ（写真3下）が見られます。

園内の見どころ情報はツイッター及びインスタグラムでも確認できます。

メールマガジンよりも早くお知らせできることが多いのでぜひ下記 URL からご覧ください。

ツイッターアカウント名： @Ryokkacenter <https://twitter.com/ryokkacenter>

インスタグラムアカウント名： kanriryokka <https://www.instagram.com/kanriryokka/>

フォローよろしくお願いします。

<お知らせ>

・西ゲート側林道通行止めについて

西ゲート側林道は豪雨災害による通行止めが継続中です。ご来園の際は小河原側の正面ゲートよりお越しください。



写真1 サルスベリ（多目的広場） R1.8.22



写真2左上 ホドイモ (正面ゲート下三叉路) R1.8.22



写真2右上 アカソ (レストハウス裏庭) R1.8.22



写真2左下 ネコハギ (作業舎前) R1.8.22



写真2右下 オタカラコウ (薬草園横) R1.8.22



写真3上 ミナミカマバエ (多目的広場) R1.8.22



写真3下 エゴヒゲナガゾウムシ (左:♂ 右:♀) R1.7.31



昆虫写真提供 (4枚) : 川尻 様